

産後の毎日は、とにかく無我夢中でした。1カ月の滞在の後、両親が日本に帰ってしまった日には、これから大丈夫かしらと不安な気持ちでいっぱいになりました。身近に親、兄弟、親類がいらないというのはやっぱりさみしいですね。

長女が1歳になった時、近所の託児所 (Day Care Centre) に預けることにしました。私は仕事をしていたわけではありませんが、すっかり育児に疲れている姿を見て、乳幼児ヘルスセンターの看護

師さんが「託児所に預けることもできるのよ」と教えてくれたのです。

託児所は私立のものがほとんどで、月曜から金曜の朝7時から午後6時ごろまで預かってくれます。対象は新生児から5歳まで。費用は当時で1日約5千円かかりましたが、政府の補助金で一部返金されます。子どもには「何で私がこんなところに預けられるの

託児所初体験



幼稚園で「おままごと」遊びをする子どもたち

よう」と言わんばかりに毎回泣かれましたが、少し離れる時間が持てたのは母親で、週2回お世話になりました。

無我夢中の毎日に生き抜き

した。

このほか、一般家庭で数人の子どもを預かる「Family Day Care」というものもあります。保育者は必要な訓練を受け、役所から認可を受けています。少人数で見てもらえるので安心と、なかなか人気があるようでした。

友だちの誕生会にもよく招待されました。小さい子どもにとつての一番の楽しみは、誕生会なのです。こちらでは、友だちを集めて盛大にお祝いします。家でのパーティー、プレイセンタ―、公園やビーチでのパーティー、少し大きくなるとボウリング、映画、お泊まりパーティーなどいろいろです。

パーティーにマジシャン

を呼んだり、珍しい動物を連れてきてもらったりと趣向を凝らします。ゲームをしたり、パーティーフードや誕生日ケーキを食べたり、プレゼントをもらったりと、子どもにとつては大興奮の1日です。

子どもの誕生会会は大ビジネスになっていて、宣伝も盛んに行われています。今年のパーティーはどんなものにするかしら、と親はついぐん前から考え始めなければなりません。ちょっとお金がかかるのも、親にとつては悩みの種ですね。

(新山直子、メルボルン在住)

(日曜日に掲載)